

母子支える 唯一の助産院

女性にとって、家族、そして人生にとって大きな出来事である出産。病院と違い、大切な時を家族に囲まれ、子どもの誕生の喜びを共に分かち合うことができる自然分娩をサポートし、分娩から産後ケアまで、精力的に活動している松田幸代さんにお話を伺いました。

「最初にここで産むリスクはすべて説明します。家族のひとりでも反対があれば受け入れません。助産院は女性が本来持っている産む力を信じ自分で産むところです」続けて「病

は旬の野菜を使った和食を出すようにしており、発酵食品や栗ご飯、里芋のクロックなど季節ものや体に良いメニューが並びます。宿泊型とデイサービスの2種類があり「加西市は産後ケアが充実しています。助成金も出るし、初めての赤ちゃんは特に心配。1人で抱え込まずに利用してください」と呼びかけます。

まつだ助産院では出産後1カ月までに3回訪問しますが、赤ちゃんの状態によっては何回でも訪問します。これは助産師ではなく昔ながらの産婆さんでありたいという思いからだそうです。また、産後は感情が不安定になります。その時は「産後ケアを受けたら？」と言ってあげて。あとは奥さんの話をよく聞いてあげて」と円満に過ごせる秘訣を教えてくださいました。

描く未来

キラリびと vol.8

松田幸代 Yukiyo Matsuda

昭和39年生まれ。聖バルナバ助産師学院卒業後、大阪市内の病院で15年間勤務し、平成13年に加西市へ。加古川、小野、加西市の病院で勤務後、平成20年に「まつだ助産院」を開業。月1回、市が開設している子育ての不安や悩みの相談支援の場「子育てひろば」でアドバイザーも行う。

●完全予約制 ☎090-2108-8115



Instagram



LINE

故郷で開業

駐車場に車を停めると中から賑やかな声が聞こえてきました。福住町にある「まつだ助産院」。玄関を上がると広々としたリビングがあり、ここで出産を終えたお母さんたちが子どもたちと一緒に団欒を楽しんでいます。聞くと、姫路や小野、相生、丹波篠山市など市外からもたくさん来られています。これはSNSや口コミで利用者が増えたといいます。「今日は食育をテーマにみんな話していたんです」そう笑顔で教えてくれたのは院長を務める松田幸代さん。助産師歴35年になる松田さんは、もともと大阪市内の病院で助産師として勤務していました。自分の子どもを自宅分娩した体験をきっかけに「お産は特別なものではない、生活の中にあるものだ」と気がきます。「家族に囲まれ、日常生活の中で産める。お母さんも赤ちゃんもこんなに幸せなことはない」そして、「お母さん主体の自然なお産のお手伝いがしたい」と強く思うようになり、平成20年に生まれ育った町で助産院を開業しました。

病院との違い

また、ここは、令和2年1月で、市立加西病院での分娩が休止になり、市内で唯一、出産できる場所となりました。

院は何かあれば簡単に薬が使えますが、助産院ではそうはいきません。貧血にならないように食事に注意したり、陣痛を促進させるために散歩や階段の上り下りをする。また、切迫早産にならないためには体を冷やさないなど一つ一つ説明して自然分娩に持っていくのが助産院なんです」と病院と助産院との違いを話してくれました。ここでは、お産の時は1人ではなく数人のスタッフで対応します。「お産体制も万全なので安心してください」と言う松田さん。医療行為はできませんが、分娩中に出血が多くなった時の応急処置の薬、病院への搬送までの点滴や赤ちゃんに何かあった時の酸素など必要最低限の医療機器は置いてあります。また、まつだ助産院は姫路にある聖マリア病院と連携しサポート体制を取っています。開院して14年が経ちますが、搬送された妊婦はひとりもないそうです。

2つの命幸せに

これまで約700人のお産に立ち会ってきた大ベテランですが、いまだにお産前は緊張するといいます。「お母さんと赤ちゃんの2つの命を預かっていますから。健康体でも何があるのかが分からないのがお産。だから常に緊張しています」「でも産んだお母さんの顔を見ると報われるんです。赤ちゃんの泣き声が聞いたらそれだけで十分」。病院だと産んだ後は疲れた顔になることが多いですが、ここで産むとみんなきれいな顔をしているといえます。これは陣痛の痛みを病院のベッド

地域担う産後ケア

妊娠中から出産後まで、お母さんと赤ちゃんをケアするのが助産師の仕事です。まつだ助産院では産後ケアにも力を入れていきます。北播磨地区の包括支援センターと契約しており、お産がないときは積極的に受け入れをしています。「核家族が増えているから産後に不安になるお母さんが多いんです」。取材中も受け入れ依頼の電話がひっきりなしに掛かっていました。この日も夕方から1人宿泊に來られます。「ご飯何作るのかな？」そうつぶやく松田さん。写真を見せてもらいましたが、メインに小鉢など数種類、基本的に



写真上／エコーを使っている妊婦健診の様子
写真下／家庭的な雰囲気でも気兼ねなく相談できる



優しく抱きかかえる松田さん。顔を見て愛情たっぷりの眼差しを向けると赤ちゃんも大喜び

KASAI データバンク

R3.10.31 現在 (前月比)

人口 / 42,839人 (-70)

男 / 21,041人 (-41) 女 / 21,798人 (-29)

世帯数 / 18,224 (-21)

10月の出生数 / 9人 死亡数 / 63人

●12/8、22は市民課・国保医療課窓口を延長
(17:15 ~ 19:00)